

会社概要・編集方針	2012年度ハイライト	トップコミットメント	金融機関として 取り組むべき優先課題	優先課題:ケーススタディ	SMFGにおけるCSR
盤石な経営体制	CS・品質向上への取り組み	環境活動	社会貢献活動	人の尊重と人材活用	各種データ集

トップコミットメント

当社グループが 社会全体の 持続的な発展の為に 貢献できること

世界の情勢と環境の変化、 社会の課題が多様化

2012年度は、欧州における財政問題が混迷の度合いを増し、わが国の経済も減速するなど、国内外ともに政治・経済・マーケット環境が不透明な時期が続きました。もっとも、その後年度末にかけては欧州も落ち着きを取り戻し、わが国でも円安・株高で経済が持ち直すなど、明るい方向感が出てきました。このようななかですが、社会的にはグローバル化の進行に伴う貧富の格差の拡大や人権問題、気候変動問題が世界的に深刻さを増し、また国内では少子・高齢化が一段と進んでいます。さまざまな課題は継続しつつ、かつ多様化してきているのです。

わが国企業にとって、2011年3月の東日本大震災が自社の社会的価値や社会のニーズについて考え直す大きな転機となったことは間違いありません。世界的にもCSRを取り巻く環境は大きく、かつ活発に変化しています。例えば、新しいサステナビリティ・レポート・ガイドライン (GRI 4.0) が公表されました。国際基準の整備が進むなか、統合報告書に対する関心が高まるなど、企業のESG (環境・社会・ガバナンス) 情報をはじめとするいわゆる「非財務情報」の重要性に注目が集まっています。またCSV (Creating Shared Value) の考え方に基づいて社会的課題にビジネスとして対応する動きも広がってきました。このような状況の下、企業は、社会の持続的な発展に向けた貢献を、これまで以上に創意工夫を凝らしながら行っていかなければならないと認識しています。



株式会社 三井住友フィナンシャルグループ

取締役社長 **宮田孝一**

会社概要・編集方針	2012年度ハイライト	トップコミットメント	金融機関として 取り組むべき優先課題	優先課題:ケーススタディ	SMFGにおけるCSR
盤石な経営体制	CS・品質向上への取り組み	環境活動	社会貢献活動	人の尊重と人材活用	各種データ集

トップコミットメント 当社グループが社会全体の持続的な発展の為に貢献できること

当社グループの動き

～中期経営計画に基づく2012年度の振り返り～

当社グループでは、新たな規制・競争環境に対応した財務体質の実現達成に向け、2012年度を「プロアクティブな発想・行動で、変化をもたらすチャンスをつかみとらえ、中期経営計画の実現に向けて着実に前進する年」と位置付け、着実に成果を残してまいりました。また、当社の業務運営がグループ横断的かつグローバルに広がりを見せるなか、英国の航空機リース事業買収やプロミスの完全子会社化など、グループ力を一層強化いたしました。

この間、CSRにおいては、「震災復興」「環境」「少子・高齢化」「グローバル」という4つの重点課題を金融機関として取り組むべき優先課題と位置付け、課題解決に向けた努力を重ねてまいりました。当社グループの取り組みの具体的内容については、このCSRレポートを是非ご覧いただきたいと思っております。

これまでの取り組みが評価され、フィナンシャルタイムズ (FT) 紙と国際金融公社 (IFC) が主催する Sustainable Finance Conference & Awards 2013において、三井住友銀行は「Sustainable Bank of the Year (豪亜地区銀行部門)」を受賞することができました。本賞はESGの3つの分野において持続可能性に貢献し、高い成果を実現した銀行に与えられるもので、日本の銀行としては初の受賞です。また、東証一部上場企業の中から、女性人材の活用を積極的に進めている企業として、「なでしこ銘柄」にも選定されました。以上のように、2012年度は当社グループのCSRに関するさまざまな取り組みに対して、各方面から評価をいただいた年でもありました。

これからのCSR

～当社グループが社会全体の持続的な発展の為に貢献できること～

当社グループは、2013年度を中期経営計画の最終年度として、「日本経済再生への積極的な貢献により成長を実現するとともに、次の飛躍に向けた新たなビジネスモデルの創造・イノベーションの実現にチャレンジする年」と位置付けています。日本経済の力強い成長をサポートするために、当社グループは取るべきリスクをきちんと取りながら、お客さまに一層必要とされる金融機関へと発展していきたいと思っております。

CSRに関しては、引き続き金融機関として取り組むべき4つの優先課題に対し、解決に向けた取り組みを一層進めます。そして、人権問題、財務情報と非財務情報の統合といった、国際的にも注目度が高まっているさまざまな動きに対してアンテナ高く、プロアクティブに備えてまいります。世の中に必要なお金をきちんと提供し、より良い社会を実現していくことが、金融機関としての私たちの基本的な使命であります。本業を通じて社会、コミュニティに対して重要な役割を担っていることを常に認識しつつ、「SMFG Way」としてグループ一体となった取り組みを推進していきます。同時に、従業員による地域ボランティアの拡充など社会的な課題解決を図る支援活動を通じて、本業にも波及効果をおよぼしつつ、持続的な社会の発展に貢献してまいります。

まさに当社グループのCSRは経営そのものです。今後も、お客さま、投資家、社会、従業員などさまざまなステークホルダーの生の声をしっかりと受け止め、そのニーズに本業で応えつつ「最高の信頼」を得られるよう、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。あわせて、社会全体の持続的な発展の為に、当社グループとして何ができるのかを考え、中長期的に不断の努力をコミットしていく姿勢で取り組んでまいります。今後とも、なお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年9月